

令和4年度 教育コミュニケーションコース

修士論文中間発表会

令和4年12月11日(日)

もうすっかり慣れた「ハイフレックス」の方式で昼間・夜間の院生が以下のテーマで発表を行いました。

研究テーマ

- 社会を「共に生きる力」についての考察～社会モデルアプローチで学校教育を問い直す～
- 教育において偶然性の問題を扱うことの意義について
ー可能性の問題や現実性の問題との比較を手がかりとしてー
- 高校生による探究的かつ協働的な学習プロセスの研究
- 文学作品の「読みの更新」を目指した授業実践研究ー「盆土産」の「謎解き読み」を手掛かりにー
- 授業における教師の「身体知」を問い直す～教師の行為と言語のかかわりから～
- 「生徒を規範する教師に対する規範の必要性」ー法的思考を踏まえた校則の研究ー
- 学ぶ意味を見出せない生徒に対するケアの研究ー数学の学習場面に焦点を当ててー
- 教員の異動における小規模校という「学校環境」への「適応」に関する研究
- 「市民性教育」の学校教育での可能性ー日本社会の特性を踏まえてー
- 教育の公共性を担保するための条件解明を目指して
- 環境を通して「遊べる子」についての考察
- 「日中交流」に関するメディア報道の分析ー1972-2022年の新聞報道を事例にー
- 看護学生が楽しく自ら学び教えあう授業の研究



普段一緒に授業を受けている人たちがどのような研究をしているのかを知る良い機会となりました。この発表会に参加したそれぞれの人が自分と似ているテーマの人を見つけたり、テーマこそ似ていなくても考えていることが似ている人を見つけたりすることができたのではないのでしょうか。

発表の進捗はそれぞれ異なるところがありますが、それぞれが自身の研究テーマを持ち帰り、また洗練させて次の六月の発表会、そして修士論文の提出に向かって再スタートする良い機会になったのではないかと思います。

時にはコースの先生方や一緒に学んでいる人たちを頼りながら研究を進めていこうという気持ちをみなさん改めて持ったのではないのでしょうか。